

4年3組教室

**本時で目指す授業**

場面の移り変わりや登場人物の人柄が表れている言葉に着目させながら、話の展開の面白さや、人物の面白さを読ませる。友達の音読を聞き合うことにより、それぞれの工夫の良さを味わう授業。

- 1 単元名 わらい話を楽しもう 日本の言の葉  
 教材名 プレ教材 「白ねずみ」古典落語  
 メイン教材 「恩返し」古典落語  
 ポスト教材 「落語絵本シリーズ」(川端 誠 著 クレヨンハウス )

**2 単元の目標**

- 場面の移り変わりや登場人物の人柄が表れている言葉に着目しながら、話の展開の面白さや、人物の面白さを読むことができる。(知識・技能(1)ア)
- 話や登場人物の面白さが相手に伝わるように音読したり、相手の音読の工夫したことを落とさずに聞いたりすることができる。(思考・判断・表現(1)アイエ)
- 相手に伝わる音読の仕方に関心を持ち、試行錯誤しながら工夫して音読しようとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

**3 目指す児童の姿に向けて**

**単元で目指す児童の姿**

学びに向かう構えをもたせることと、言葉の力を付けることを意識してきた。本単元においては、学びに向かう構えでは、①多様な考えを受け入れ、尊重する態度②たとえたとどしいものであっても、自分なりの表現を皆に話すことを臆さない態度③友達の学びに向かう姿勢から、自らの学ぶ姿勢を振り返る謙虚さの3点を目指す。また、言葉の力では、話や登場人物の面白さが相手に伝わるように音読したり、相手の音読のよさを落とさずに聞いたりすることができる児童の姿を目指す。

**題材の手立て**

- ・他者を意識した音読
- ・学びを自覚し、見通しをもつ振り返り

**単元について**

- ・本単元は、「笑い」に関連した読書をしたり、音読を発表し合ったりする単元である。
- ・「白ねずみ」「恩返し」「落語絵本」は、江戸時代から伝わる日本の代表的な話芸である「落語」の演目である。庶民の飾り気のない生活ぶりや生き生きとした話し言葉を通して、登場人物の願いや感情に触れていくことができる。
- ・関連する本を探して読んでみようとする態度、落語を演じてみたいという思いをもつことを期待し、メイン教材、ポスト教材へとつなげていきたい。
- ・プレ教材で習得したことをメイン、ポスト教材で活用できるように単元構成を工夫する。このことにより、学びの自覚を促すことができると考える。

**本単元で育みたい資質・能力**

- ・相手に伝わるように強弱や間の取り方等を工夫して音読すること。
- ・友達が工夫したことを落とさないように集中して聞くこと。
- ・自分と他者の考えを比べることで、自分の考えに自信をもったり、他者のよさを見付け自分の考えに取り入れたりし、自分の考えをよりよいものにしていくこと。

**児童の実態**

- ・「学び」を自分事としてとらえず、参加しようとする態度が育っていない児童がみられる。
- ・自分の考えを人前で話すことをためらい、分かっているけど自信がなく話したがらない傾向がある児童がいる半面、自分が言いたいときははじめなく大声で話し出す児童もいる。
- ・聞く・話すの活動では、友達のよいところを見付けて感想を述べたり、共感的に聞くことが徐々にできるようになっているが、相手意識・目的意識をもつところまでは至っていない。
- ・叙述を根拠にした読み取りには至っていないため、思い付きの発言が多い。

主に働かせる見方・考え方に、面白さを伝えるための、音読の仕方について考えること。

#### 4 単元計画 (5時間扱い)

次	学習活動	時間
一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「白ねずみ」を読み、落語の面白さに気づき、音読の工夫をする。</li> <li>・「恩返し」を読み、朗読を聞き合う。</li> <li>・「落語絵本」シリーズを読み、面白さについてフリートークを行う。その後お気に入りの場面を練習し、4年3組「笑点」を行う。</li> </ul>	1 (本時) 1 2
二	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落語の面白さ、語り(音読・朗読)の楽しさ、難しさについて座談会形式で振り返りを行う。</li> </ul>	1

#### 5 本時の学習 (1/5)

##### 1 目標

登場人物の行動や台詞について考えることを通して、作品の面白さを読み取り、強弱や間の取り方等を工夫しながら音読することができる。 【知識・技能】

##### 2 展開

学習活動 ・予想される児童の発言・思考	・教師の働きかけ <b>手立て</b> ◎評価
<p>1 「白ねずみ」を読み、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地の文と会話文がある。</li> <li>・「笑点」みたいだね。</li> <li>・駄洒落になっている。</li> <li>・登場人物は三人だね。</li> <li>・いや、四人だよ。</li> </ul> <p>2 学習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「白ねずみ」のおもしろさが伝わるように、音読を工夫し、発表し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとすらすら読めるように、〇〇読みをしたい。</li> <li>・工夫が分かるように、音読記号を付けてみたい。</li> <li>・発表できるように、こんな練習がしたいな。</li> </ul> <p>3 個人で音読練習をした後、「オチ」について知る。</p> <p>4 面白さが伝わるように音読するにはどうすればよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奉公人は、慌てているから速く読もう。</li> <li>・御主人は、ゆったりと落ち着いた声で読もう。</li> <li>・最後のねずみの台詞は、小さな声でかわいく読もう。</li> </ul> <p>*上記の児童の反応は、心内語(内言)であり、国語部では自己との対話と捉える。</p> <p>5 音読の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は一人で練習するよ。</li> <li>・心配だから、先生に聞いてほしいな。</li> <li>・友達と役割読みをしたいな。</li> </ul> <p>*コロナウイルスの関係で…ペア等をどこまで許容するかは、その日の状況による。</p> <p>6 音読を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、ネズミがとぼけているように、少し声を変えて「チューチュー」と読みます。</li> <li>・奉公人とご主人の会話をテンポよく、リズムカルに読みます。</li> </ul>	<p><b>支</b> 支援</p> <p>自由な話せる雰囲気大切に、この後の発表や音読練習へ向かわせるウォーミングアップになるよう配慮する。</p> <p><b>支</b> 課題解決のための学習の進め方を、児童とともに確認することで、見通しをもち、学習に主体的に取り組むことができるようにする。</p> <p><b>支</b> 音読が苦手な児童がすらすら読めるよう、いくつかのバリエーションを用いて何度も飽きずに読ませるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入させる。</li> </ul> <p><b>支</b> 取り組むことが難しい児童には、教師や友達をいつでも頼ってよいことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドサイン</li> <li>・立ち歩きのペア</li> </ul> <p><b>児童から出された音読練習の方法</b></p> <p><b>支</b> 個人・教師と一緒になど、練習の方法は児童に決定させる。各々別々でもよいが、学級全体として何らかの練習方法を取り入れることも可能である。児童主体を常に意識し、学習に乗れない児童を見逃さない。巻き込むための手立てを複数準備し、全員参加・全員活動・全員思考を目指す。</p> <p><b>支</b> 指名された児童だけの発表にならないように、まずは全員に音声言語化させることで自信をもたせ、発表への心理的負担を減らす。</p> <p>◎面白さが伝わるように、工夫して音</p>

- 私は〇〇さんとは違って、奉公人とご主人の会話をゆっくり味わいながら読みます。

読をすることができる。  
(思・判・表／音読)

### 友達と自分の音読との比較

- それぞれの音読の工夫や良さ、効果などに注目しながら聞かせる。
- ワークシートに振り返りを記入させる。「わ・か・こ」で振り返らせるが、すべて網羅しなくてもよいことを伝える。

7 学んだことを振り返る。

- 落語には、面白い会話でのやり取りがあることが分かった。
- 落語には「オチ」があり、そこを工夫して読めばいいことが分かった。
- 〇〇さんの読み方を聞いて、間をとることの大切さがわかった。
- 今日の学習を生かして、次の時間は、違う音読記号も使ってみたいと思った。

なかなか書き出せない児童がいる場合は、書いている途中でも数名に指名し途中まで発表させる。耳で聞かせることにより、それらをまねるよう促す。また、板書も参考にするよう声をかける。

### 板書計画

